



~ふくらの保育（療育）指針について~

ふくらは、0歳からお預かりするデイサービスです。障がいがあってもなくても子育てはとても重要で、かつ、難しいものだと思っております。この度、保育士などの専門職とともに練り上げた「ふくらの保育の基本姿勢」を策定し大切なお子様に対する療育の方針というべきものを、全職員と共有しておりますので、ご父兄の皆様にもお伝えいたします。

《ふくらは子供を叱らずに保育をします》

- 我が子のように愛します。我が子のように可愛がります。
- 強い言葉を使いません。感情で叱ったりしません。否定ではなく提案をします。
- 何度でも丁寧に教えます。出来たら大いに褒めて伸ばします。

《ふくらの子供たちが身に着ける基本方針》

- 自分に自信を持つ（愛される・名前を呼んで褒められる）
- 集団生活から社会性の習得（集中できる時間の確保・友達ができる・一日の流れがわかりルールを理解できる）
- できることを増やす（気持ちの表出ができる・挨拶ができる・返事ができる）
- 感謝ができるようになる（嬉しいな、幸せだな、ありがたいなど感じる事ができる、親や周囲の人たちに感謝の気持ちを持てるようになる）



ふくらのめざす保育の最大の特徴は、「感謝ができるようになる」という点です。

言葉を発することができないお子さんが大多数ですが、心の中に広がる思いが「愚痴や不平不満、人の足りないところばかり気になりイライラする」なんてとても悲しいことですし、不幸な姿だと思います。「小さなことにも喜べて、幸せだな～、ありがたいな、嬉しいな、大好き♪」という心がふくらんだらとっても幸せな人生を送ることができるのではないかと思っております。子供たちはそばにいる大人がどんな言葉を発し、どんな話をしているかをよく聞いており、その大人の思考に影響を受けます。親の言葉は子供の思考となって形成されます。ですから、子供の前で誰かの悪口を言ったりすると子供はその人をその瞬間に嫌いになります。口がきけてもきけなくても・・・です。我々は子供たちに長く接してきて、それを実感しております。あっという間に顔つきも表情も変わります。伝わってきます。そばにいる大人の影響は大きいな・・・とつくづく痛感しております。ですから、私たち療育者は決して人の悪いところを子供たちに聞かせたりしてはいけません。と強く思って子供たちと向かい合っております。「嬉しいな、大好き♪」そんな幸せな笑顔でいて欲しいと願いを込めながら、「ありがとう！大好きだよ♪」の言葉をたくさん発しながら療育したいと思っております。ご家族の皆様も、どうか子供の前で愚痴不平不満や人の悪口など言わないよう切にお願いいたします。人を嫌いになってよいことなどひとつもありません。大切な子供たちの心に、感謝や人を好きになる気持ちを共に育ててまいりましょう。



~代表コラム~

株式会社福蔵FUKURA代表取締役/一般社団法人ふくら代表理事
須田 祥子

【自分自身の子育てを振り返る】

こうして私は、ふくらの保育の指針を構築し方針として打ち出しましたが、私自身の子育てはどうだったかと言うと残念ながら大いに反省ばかりです。2人の娘を育てましたが、忙しさにかまけて授業参観など行ってあげたことがありません。次女が生まれてすぐに主人は単身赴任となりワンオペでの育児でした。夜、次女におっぱいを飲ませながら寝かしつけている時に、背中側にいる3歳の長女が「ママこっち向いて」と泣きべそをかきながら言ったときのことを良く思い出します。私はやっと目をつぶった赤ちゃんがその声で目を開けてしまったことや夜になって自身もへとへとになっておりイライラする気持ちを抑えきれずに、「おっぱい飲ませているのが分からないの？」と強い言葉で長女を叱ってしまったことを思い出すたびに後悔で胸が苦しくなります。「申し訳なかった・・・ごめんね。ごめんね。」何度も心の中で詫言しながら誓います。「後悔をふくらの子供たちを幸せにする力に換えよう」と。「大丈夫だよ、いつでもどこにいても大好きだよ。」あの時伝えなかった言葉をたくさんふくらの子供たちに言ってあげたい。そう強く思えるのも、自分自身の子育ての失敗のおかげでもあります。「叱らない保育」を打ち出したのもそうです。そして、職員たちに「子供の行事などは優先してあげて」と子育て中の職員が働きやすい環境にしているのも、自分の後悔があったからこそなのです。反省を教訓として世の中のお役に立つための力にしていくことが、ふくらの職員と共有している【ポジティブに生きること】なのではないかと考えます。

【現在の娘2人は】

長女と次女は、それぞれ子育てをしながらふくらの業務にあたってくれております。正直に言いますとこの仕事に関わらせたくないという気持ちもあったのですが、宿命なのか分かりませんが、逆らえない運命の流れの中でふくらで仕事をすることになり、先輩職員に教えてもらいながら、それぞれに頑張ってくれております。母親に似て、おっちょこちょいで至らないところばかりですが、ふくらの子供たちが一生懸命生きていく姿を目の当たりにして「辛いこともあるだろうに、あんなに可愛い笑顔を見せてくれて愛おしさがこみあげてくる。頑張っている姿が尊くて・・・お世話させていただけることが本当にありがたいね」と時に涙を流しながら申しております。そんな娘たち2人、他の職員ともども、なにとぞよろしくお願いいたします。